

令和5年度 第12回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議

《議事概要》

開催日 : 令和5年8月7日(月)

開催時間 : 開会 午後3時00分 閉会 午後5時00分

開催場所 : 水道部庁舎3階会議室 + Web

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	一般財団法人 計量計画研究所 代理理事	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	Web参加
	小泉 秀樹	東京大学 教授	
	福井 恒明	法政大学 教授	Web参加
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 相談役	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	
	岸本 まき	沼津市地域公共交通協議会 委員	
	石黒 和子	沼津市社会福祉協議会 福祉企画課長	
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 直前会長	
交通事業者	平井 崇士	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当課長	代理出席
	渡邊 輝	富士急シティバス株式会社 管理部長	代理出席
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	齋藤 幸治	静岡県 沼津警察署 交通官	
	佐藤 雅史	静岡県 交通基盤部 都市局 街路整備課 課長	代理出席
	曾根 裕介	静岡県 沼津土木事務所 所長	
	南木 宏和	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長	
	吉澤 勇一郎	沼津市 副市長	
	関野 勇治	沼津市 まちづくり統括監	
オブザーバー	田中 成興	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	
	後藤 直紀	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	

<次 第>

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 事務局からの説明
 - (1) (都) 三枚橋錦町線 暫定整備 (パークレット設置) について
 - (2) 中期駅前広場実現に向けて
 - (3) 情報発信の取組
- 4 意見交換
- 5 閉会

<議事概要>

- 岸井氏** パークレットについての意見交換から行いたい。
まずは自分から尋ねるが、パラソルは誰が設置し、風に対する安全性はどのように確保するのか。
- 事務局** パラソル自体は市で用意するが、設置については可能であれば地域の自治会や商店街の方をお願いしたい。風対策としては、パークレットの施設内のプランター付近に、着脱式の設置場所を4か所程度設け、風で飛ばされないように固定する。
- 佐藤（清）氏** 想定している運用主体はあるか。地域でやるのか、商店街でやるのか。地域ではなかなか難しいと思う。
- 事務局** 具体的な運用方法はまだ決定していない。運用を強制することはできないため、今後の運用方法について自治会を含む地域の関係者と相談して決定したい。パラソルに関しては、来年の日差しが強くなる時期までには協議を進めておきたい。
- 高田氏** 今回設置するパークレットは駅前広場の完成を見据えた段階的な施策の第一弾という理解でよいか。
- 事務局** 今回のパークレットは、駅前広場の整備前に想定している三枚橋錦町線の整備を見据えた、実際の使い方を検証・検討するための暫定整備である。
- 福井氏** 今回の暫定整備では車線減少の検証する趣旨もあるのか。
また、駅南口交差点と仲見世商店街への横断歩道までの範囲の中で、今回の設置位置に決定した意図を教えてほしい。例えば、交差点付近にサークルベンチがあるが、これらとの関係性等はどのように考えているのか。
- 事務局** パークレットの設置に伴って結果的に車線が減少している状況であるため、導流帯部分の利活用の検証については今後検討したい。今回のパークレットの設置場所は昨年度のベンチやスタンド等の設置場所と同様であり、出店者や周辺事業者へのアンケート結果を踏まえて決定している。
- 福井氏** パークレット施設内の空間は限られるので、満席になった場合にあふれた人を受け止められるような居場所を、パークレット以外で考えられるとよい。

- 岸井氏 パークレットは一度設置すると動かさないか。また、設置位置についてもう少し駅側に寄せることは可能か。
- 事務局 一年半以上の常設期間内は動かさない想定である。設置位置については今回提示した設置位置で道路管理者や交通管理者と協議を進めている。駅に近い導流帯内については、キッチンカーの誘致等の取組を検討中である。
- 森本氏 パークレットの管理者は誰か。
- また、パークレット以外の導流帯が広範囲にあるので、国交省等から提示されているカーブサイドマネジメントの手法を参考にしつつ、キッチンカー利用も含め幅広い議論をお願いしたい。
- 事務局 パークレットの所有者は市だが、将来的なエリアマネジメント組織の立ち上げのため、清掃や植栽の水やり等各項目について地域や商店街等の方々と協議しながら今後運用方法を決定していきたい。導流帯の活用やキッチンカー以外の活用方法についても今後検討を行いたい。
- 森本氏 大変貴重な場所であるので、エリアマネジメント組織を作るために、関係者と一緒になって使い方を考えていってもらいたい。
- 佐藤（雅）氏 パークレットは固定するとのことだが、必要であれば他の路線に移設して使えるようになっているのか。
- 事務局 別の場所でも使うことを想定して、耐用年数を10年として設計している。固定方法については、車両防護を想定して、パークレットのベースとなるH鋼をアスファルトにアンカーボルト固定する想定である。別の場所へ移設する際は、3、4個のユニットに分解して輸送する。
- 岸井氏 基本的にはこのような空間を増やしていきたいと思うので、必要に応じて移設して使ってほしい。
- 小泉氏 運営組織の組成が重要である。放置された寂しい空間になると、街にとってマイナス効果になりかねないため、日常的な管理が必要となる。設置してから数か月は、実行委員会のような組織体制を整えるための準備期間とみなして協議を進めるのがよい。その際に、特定の団体に運営を依頼するのではなく、パークレットの設置によって恩恵を受ける多くの主体に声をかけるべきである。組織体制の構築に関しても、駅前空間整備に向けた一つのステップとみなして、組織形成の戦略を考えていく必要がある。
- 事務局 エリアマネジメント組織の立ち上げまでにはまだ時間を要すると考えているが、今年度は助走期間として幅広い地域の方々に関わっていただけるよう仕組みづくりを考えたい。
- 岸井氏 パークレットの内部の「OPEN NUMAZU」と路面ペイントがされている場所に出店は可能か。また、商店街のOPEN NUMAZUとの連携はどのように考えているか。
- 事務局 出店可能である。昨年の社会実験でも出店者から好評だった場所でもある。

商店街との連携については、仲見世商店街で行われる OPEN NUMAZU weekend の開催時期をパークレットの設置時期に合わせることを考えている。

田中氏

地域に運営を任せる際の運営側のメリットはどのように考えているか。長期的にはエリア価値の向上がメリットだと思うが、運営への参入のハードルを下げるような短期的なメリットについての案はあるか。例えば、運営者のやりたいことが実現できるように、空間を自由に使うてもらえるような仕組みを整えることが必要である。

また、資料 P23 のパークレットの絵には交流が生まれるようなアクティビティが少ないため、今後市民に見せる絵では飲食関係やピクニック等のアクティビティも含めて充実させてほしい。

事務局

運営側のメリットとしては、外から地域に来られる方が商売を行う際に、周辺の地権者や商店街との連携がしやすくなることが考えられる。また、街中を楽しんで回遊する人が増えることについては、市だけでなく商業者に対してもメリットだと考えている。

小泉氏

パークレットの出店可能エリアを自由に使えるということが最大のメリットだと思うので、管理運営するためのルール作りが必要ではないか。目標を定めた規範的な項目や、利用者に対する義務的な項目を盛り込むだけでなく、ルールを公開した上で出展可能エリアの使い方に対する提案を広く募集できるような仕組みを構築するとよい。

また、ルール作りは早い方がよい。年度内を準備的な運営期間として、その間に運営体制が構築しながら、様々な団体が使えるようするためのルールづくりも行えるとうい。そうすれば、次年度以降の効果検証もしやすくなる。

岸井氏

使いたい人を巻き込むということ。使いたいならそれなりに責任を持ってもらわなければならないし、一緒になって取り組んでほしいとなる。そのような場を設定できるかということになる。ここにきて商売ができましたというだけにならないように仕掛けてほしい。

高田氏

パークレットの利用者に対して席が足りない恐れがある。管理が必要な植栽の面積を減らし、休憩スペースを増やすことも考えられる。また、水やり等の管理については、出店のおける規約の中に記載しておくのがよいのではないかと。

岸井氏

なるべく多くの方に関与してもらって、育ててもらえるような場にしてほしい。

とりあえずこの状態でスタートしてもらって、少し時間を掛けて来年一年間の運営の仕方を考えていけるとよい。仲見世商店街の OPENNUMAZU との連動についてもあらかじめ仕掛けを作れておくとよい。

次に、中期駅前広場の実現に向けた取組として、主に地上横断化についてご意見いただきたい。

栗田氏

新設横断歩道の付近にある地下通路入口についてはどのように考えているか。残

したままではスペースがないため、活用しにくくはないか。

また、イーラ de 前の三枚橋錦町線を車線減少するのであれば、西側にも横断歩道を新設できるのではないか。東側だけあると、西側も渡ってしまう危険性がある。

事務局

現在関係者と協議中のため決定事項ではないが、南北にある横断歩道付近の階段を埋め、上屋を撤去し、横断歩道手前に滞留空間を生み出すことも考えている。また、三枚橋錦町線の西側は東側より一車線多いため、将来的に車線を削減できれば地上横断化の検討が可能になる。

岸本氏

自分は20年前に大阪から沼津に移住したが、沼津に来た時に非常に不便さを感じた。駅前について、道の向こう側が見えているのにそのまま行けず、地下道もどこに出るのか分かりづらい。子供ができてから、乳母車で街に来てみたが、やはり不便さを感じた。

地下道は安全ではあるが、乳母車を利用する身では、地下道の上り下りはハードルが高い。また、何年も住んだ人間でさえハードルの高さを感じるのだから、初めて来た人は色々見て回りたいのに足が運べない。一度そう感じてしまうと、もう二度と来たいとはならない。ハードルが高いという認識が残ってしまう。

先日大阪から母が来て、街を見て回りたいと言われたので連れて行っただが、行きたい方向に道がない状態であった。これでは新しく街へ来た人のワクワク感を台無しにしてしまっている。見えるところに色々な情報があるのに、行くことを面倒だと感じてしまう。

横断歩道は是非作ってほしい。スクランブル交差点にしても良いと思う。地上での横断ができれば、乳母車の利用者や高齢者、足の不自由の方々の利便性の向上だけでなく、市民や来訪者の沼津の街に対するワクワク感にもつながる。

高田氏

現在ヒト中心のまちづくりのための社会実験等をしているが、もう一つ大きな目的として、寸断されている商店街にどうやって回遊性を持たせるのかということがある。自分は、地下道は撤去され、すべて地上横断化されると解釈している。おそらくスクランブル化にもなるだろう。色々な制約はあるかもしれないが、これは絶対に外してはならないし、ここがあつて暫定的にこうですよというものをしっかりさせていかなければならない。

曽根原氏

これまでの発言からも、駅前の横断歩道は必須であり、出来るだけ早く実現すべきだと思う。

P30にあるような東西の地上横断化を行うには南北の車線数を減らす必要があるが、検討状況を教えてほしい。

また、将来的なスクランブル交差点化は可能か。東西のみでは斜めに横断する人が出てくるのではないか。

事務局

東西横断化実現のためには、車道の減少が必要となるが、一般車乗降場の配置計画によって大きく影響を受けるため、今後の検討としたい。

また、現時点で交差点のスクランブル化は検討していない。

岸井氏

将来的にはかなり交差点が小さくなるが、これは前提として周りに幹線道路が出来上がって、通過交通が整理されることにある。そうなった際には、内側はヒトの空間を豊かにできることとなり、ユニバーサルデザインともいわれるが、誰もが自由にに行けるような空間ができていくことになる。

ただ、すぐに実現することは難しいため、今回は東側の南北のみとなる。

曾根氏

前提として、三枚橋錦町線はのぼりみち通りまで4車線で通すことがPT調査に基づいて都市計画決定されている。あまねガード西側区間は4車線で道路整備も完了している。中心市街地への流入する交通量を考慮した上で計画を検討してほしい。

事務局

本計画は沼津市中心市街地まちづくり戦略に基づいているが、戦略の策定にあたって、沼津市中心部に流入する車の目的地調査を行った結果、7割の車が通過交通であることが分かった。中心市街地の通過交通を今後整備される駅まち環状線(中心市街地まちづくり戦略で定めた、駅と隣接街区を囲む幹線道路ネットワーク)に流すことで駅前交通量が減ることを前提にして今回の計画を検討している。また、今回のパークレットについても、周辺交通への影響調査を設置前後で実施する。

岸井氏

交通量についても、将来整備される環状線が完成すれば、数字上は減るとのこと。今後も引き続き交通量の変化は観察して行ってほしい。

南木氏

URでは駅前の土地にて、中期駅前広場の実現に向けたアクションとして、来年度まちづくり活動の拠点になるような建物や広場を設ける予定である。その際には、アクティビティが市民の目に映ることを意識して検討したい。地上横断化の取組と連携して、街の変化や回遊性を市民に感じていただけるようにしたい。

岸井氏

多くの方々が地上横断化に期待している。本来は全ての方向に設置すべきだが、条件が整っていないため、駅前広場の変化や商店街への連続性から、この場所からになる。その場合、上屋の撤去や階段を埋めることにもなるが、整備の際は道路管理者や交通管理者から助言をもらいながら進めてほしい。また、実際に利用する地元の方々とも十分な協議が必要である。

広場はパークレットや商店街と連動して街に少しずつ賑わいが点在するような仕組みがあるとよい。広場のオープニングなども何かと合わせて実施するのがよい。

佐藤(雅)氏

鉄道高架事業を所管しており、昨年度末にJRと工事協定を結び、新貨物駅から工事に着手しているところである。そろそろ長期駅前広場についても議論していく必要があると感じている。まずは、高架下の利用計画の前提となる周辺の公共施設を含めた計画を固めたいと考えている。

岸井氏

最終形を意識すると、高架下利用がどのような形になるのか、南北はどこを通すのか、北側の施設と通路がどのように繋がるのかを考えていかなければならない。

鉄道高架事業による高架下空間の活用については、事業者の県とJR、あるいは市で計画をまとめていくこととなるが、その上で周りとの関係が重要となる。駅をどの

ように設計できるのか、南北を繋ぐ道路の役割をどうするのか、長期的な土地利用のイメージをそろそろ考えておく必要がある。

福井氏 沼津において中心市街地をヒト中心の空間にすることを考えた場合、どこまで車で来てどこに車を停めてもらうのかという行動の選択が必要となってくるため、高架下空間を含めて想定しておく必要がある。

事務局 現状、駐車場施策については細かな協議ができていないので長期駅前広場の計画も見据えて検討する必要がある。

岸井氏 地方都市においては駐車場が乱立することで、駐車場の価値も下がっている場所もあるため、沼津においても需給バランスを考える必要がある。また、駐車場への出入りを整理できないと、ヒトの空間が駐車場で分断されてしまう。最近では、出入りをコントロールするルールも出来てきており、法律的にもサポートする仕組みもあるため、今後真剣に考えていく必要がある。

続いて、情報発信についてご意見いただきたい。

福井氏 前回も話したが、情報発信における双方向性が重要であり、市の取組を伝えるだけでなく、若者の力をどうやってこの取組に取り込んでいくか考えなければならない。沼津は高校が多いことが強みだが、大学がなく外へ出て行ってしまう。沼津に愛着を持って欲しいとすると、例えばパークレットでも何かをしてもらうなど、主体的な関わりをプログラムに組み込めると5年後、10年後の担い手の育成につながるのではないか。

事務局 各高校に出向いたおかげか、市の取組への問い合わせが多い。興味を持っていただいた学生に、パークレットの植栽への水やりなどの細かい関わりだけでなく、大きな関わり方ができないか検討している。

岸井氏 パークレットだけでなく、中央公園まで含めて関わり方を模索してほしい。

森本氏 市のホームページにはProject PLATEAUを活用した3D都市モデルの画像が掲載されているが、2021年から更新されていない。これまで検討されてきた駅前の3DCGや動画なども連携させて、市民向けだけでなく広く情報公開するのが良いと思う。

事務局 3D都市モデルの更新が止まっていることは承知している。双方向の情報発信に役立てるため今後検討したい。

岸井氏 特に若い世代はネイティブなので、メタバースみたいな物を自分たちで作れるかもしれない。高校生を含めた若い世代はDXの担い手にもなるだろう。

今回、パークレット設置と地上横断化を含めた中期の駅前広場整備の意見をもらったが、最終的な状態にするには一般車の取扱いをどうするかということがある。そのためには更なる工夫が必要だろう。また、環状線も整備されれば、はっきりとした効果が街に現れてくるはずであり、それに併せて、歩道空間が拡張され、街がコンパクト化し、ヒトのための空間が創出される。このようにまちづくり全体を段階的に進めていくためにも今から種を蒔いておく必要がある。まちづくりの取組を若い世代

にも伝え、参加してもらい、空間を自由に使っていってもらうことが良い。プレイヤーの存在が重要であり、人材が発掘され、街で活躍をしていってもらうことが大切である。

その他、交通関係者からご意見等あるか。

平井氏

高架下利用についてはまだ先の話ではあるが、市と利活用の在り方についてキックオフを先般行った。まちづくりの方向性や駅前広場の段階整備を念頭に置きつつ議論したい。

鈴木氏

チラシによれば、10月20日～22日にアートをテーマとしてOPEN NUMAZUを実施するとのことだが、実施時期をずらして一週間後に沼津で開催されるSea級グルメ全国大会に合わせる事ができれば、県内外からくる観光客に情報発信する良い機会になると感じた。

事務局

「OPEN NUMAZU Weekend」は、多様なまちなかの回遊の機会を提供することを第一目的としているため、「週末の沼津」が月の初めに行われるに対して、あえて第三週の開催日としている。

また、パークレットの設置に関しても、全国Sea級グルメ大会には数万人の来場が見込まれる中で、開催日に合わせて設置すると混乱も予想される。開催の一週間前に設置しておくことで、来場者に利用してもらうことを想定している。

岸井氏

もしくは、開催日に合わせてずらすのではなく、追加でグルメなどをテーマにして実施してもよいと思うので、検討してほしい。

以上